

平成20年3月12日付  
紀伊民報

# 地域の宝 勉強したよ

## 県世界遺産Cの講座

田辺市本宮小

田辺市本宮町の本宮小学校は10日、県世界遺産センターの協力で、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を学ぶ授業を開いた。3年生21人が参加

し、熊野古道を歩いて気が付いたことをメモした。古道を清掃したりして、地域の文化財について理解を深めた。児童は社会科の授業で



△  
横断溝を清掃する児童  
(10日、田辺市本宮町で)

「地域を知ろう」をテーマに学習に取り組んでいる。今回、県世界遺産センターが実施している入門用の体験学習講座を授業に活用した。

児童は、本宮行政局内の世界遺産センター展示スペースで、クイズ形式のプリントを使って世界遺産の特徴を簡単に学んだ。

その後、三軒茶屋跡から熊野本宮大社までの約2キロを、普段使用している道路と古道の違いを見つけながら歩いた。児童からは「古道沿いの石にはこげが生えていた」「赤色の土が多かった」などの感想があった。

途中、古道から山林へ雨水を流す「横断溝」の清掃やごみ拾いなどのボランティア活動もした。野嶋裕人君(9)は「山には緑がたくさんあると感じた。古道がきれいになったので楽しかった」と話した。

県世界遺産センターが昨年7月から開設した入門用の講座は、本宮小のほか本宮町内の三里小も利用している。